

自立通信「ぴ・あ」 vol.2



【目次】

- 豊中 CIL 訪問
- ミキオの自立紀行 ~その3~
- ハ-ハ'キユ-大会
- 天竜中学校生来たる！！
- 日常支援研修

豊中 C I L の 訪 問

石塚 智子

10月26日に大阪にある「豊中C I L」を訪問しました。自立支援センターとヘルパーセッションと場所が分かれていました。事務所は、ビルの中にあり、少し遠いですが、トイレはデパートを借りていました。

ピア・カウンセラーが4人いて、障害者別1名ずつで、身体、視覚、精神の人がいます。私が思うには、同じ立場の人に相談、セッションなどをして行った方がいいと思いました。点字の名刺も作っているそうです。

自立体験室が事務所から、徒歩10分の所に借家ですがあります。流し台が低くなっていて、車椅子のまま使う事が出来ます。バス、トイレが一緒になっていて、リフトも付いていました。一泊1,500円だそうです。基本的に介助者と泊まる事が原則みたい。空いている時は、料理教室などで使用しています。私でも泊まれるそうですので、今度行ってみたいです。

いろんなC I Lをこれからもみていきたいです。

永島ミキオの自立紀行

～ その参 ～

受け手 水島秀俊

聞き手 永島ミキオ

永「今日はよろしくお願ひします。

水「よろしくお願ひします。

永「水島さんの部屋に来るの初めてですけど、いい部屋ですね。綺麗だし玄関まで全然段差もないし。

水「ちょうど周りより高台になってる所に建ってるのと、建物の回りが堀のようになっていて基礎の部分が低くなっているから階段等の段差がないんだよね。部屋探しには相当苦労したけど、今は運良くここが見つかって良かったなって思ってますよ。塗装されて綺麗になったけど、築年数は25年は経ってると思うよ。

永「部屋の改造とかもすごく参考になりますね。また時間のある時にじっくり見せて貰いに来てもいいですか？

水「いいですよ

永「最近、釣りは行ってます？

水「去年のクリスマスの日に行ってきましたよ。年も明けるし正月用のカニも、ついでにカニ網で獲ろうと思って

永「正月用！？さすがですね、正月用のカニを自分で獲ろうなんて・・・参りました。で獲れたんですか？

水「かわいいやつが1匹(笑) 釣果はボウズ(0匹)。弁天島の海浜公園は、足場も良いし散歩するのも“バッチグー”だね

永「バッチグー・・・・・・ナイスです！」昨年釣った魚の写真を見せてくださる。とても楽しそう・・・・・・

永「水島さんって生まれは浜松ですか？」

水「そうそう、生まれも育ちも、高校まで浜松。大学で広島に行くまでね、大学3年で交通事故にあって、その後はいろんな病院を転々と・・・それで最終的に天竜にある施設にリハビリセンターの話で盛り上がる。

永「施設に入ったときの印象は？



水「正直、最初はほっとしたね。病院って期間が来ると（治療が無くなると）すぐ出なきゃいけないから、それで新しい病院探してまた期間が来たら・・・の繰り返しだったから、やっと自分の居場所が見つかったって。でも2, 3年して本当にここで一生生活していいのかって疑問に思い始めたけどね。

永「どんなことでそう思うようになりました？

水「やっぱり施設の生活って、生活の質が最低の人のラインに合わせる平等を強いられるんですよ。施設の時間割どおりに流れていく。職員の少ない土日祭は車椅子に乗れない日もある。施設サイドで時間を決められる。外出するには1週間前に言わないといけない。18時までには帰ってこないといけない。施設は職員の人数も少ないから、こういった制限がでてくる。それが普通（施設の）の流れ。時間が経つにつれ、この流れが自分の中でも普通になってしまう。同室者の声（いびきや認知症等の奇声）が大きくて、夜は耳栓をして寝たよ。あと、職員に気を使うね。職員に気を使って仲良くなれないと、自分の生活が危ない。他の利用者よりも職員と仲良くなることに気を使って



いた。他の利用者の悪口を自分に言いに来る職員もいて、自分は相槌をうつしか出来なかった。自己主張が出来なくなる。それが嫌で、自己主張する人は職員に嫌われる。生活に耐えられなくて精神的に病んでしまう人もいるよ。

永「施設を出るきっかけはなんですか？

水「歳を取るにつれて地域に出て行くチャンスも減っていく中で、あせりもあったよね。施設の職員も若いうちに地域社会に出たほうが良いと言ってくれる方もいた。職員の中で協力してくれる人（指導員）がいて、手探りの中で不動産、生活のパターン、ヘルパー

の事を決めていった。また、浜松C I L準備会（当時）の活動で来ていたMさん（現ぴあねっと浜松職員）と天竜厚生会で出会うことが出来た。いろいろ親身になって相談にのって頂きました。あと、支援費制度も開始になったりと、いろんなタイミングが重なって出ることが出来たね。運も良かったかもね。

永「施設から出るのに何が一番苦労しました？」

水「施設での生活が長かったから色々なことがわからなくて、どれからやったらいいかわからなかった。お金を下ろすのはどうしたらいいか、ヘルパーはどうやって入ってもらったかいいか、家はどうやって借りたらいいかとか、施設で生活している時は、全て施設任せだったから、世間の常識からズレてきていて（世間知らずになっていて）本当に苦労したよ。一緒にいろんなことを考えてくれた職員もいたし、がむしゃらにやったという感じで、そういう気持ちですべていい方向に進んでいったと思うね。

運・やる気・出会い・制度　すべてのタイミングがうまくかみ合ってたと思う。

永「地域で生活するようになって一番良かったと思うことってどんなことですか？」

水「まず朝起きた時にここが施設じゃないって感じられるってことかな。今でも施設の夢を見る事あるしね。あとは犬の声とか子供の声とかが聞こえてきたり夕方にどこかの家から魚を焼いている匂いがしたり、窓から見える草木等で季節を感じたりだとか、ごく当たり前の事なんだけどそういう事に感動出来る

永「なんかいいですね、そういうの。じゃあ最後に水島さんが今後したいこととか、教えてください

水「社会とか人の為に何か自分の出来ることで、少しでも貢献していければいいかなと思ってます。自分が出る範囲で。例えば今なんかもたまに依頼があって、小学校とかの福祉教育の授業で子供たちに話しをしたりとかあるでしょ？ あんな感じの結構好きだから、そういう事も



どんどんやっていきたいしね。こういうのが自分に合ってるように思うね。あとはやっぱり釣りかな、大物を釣りたいよね

永「今度、僕も連れてって下さいよ、釣り。したことないんですよ。

水「そうだね、暖かくなったら行こう。釣り方の奥義を伝授しましょう。

永「今日はありがとうございました。



浜松自立支援センター親睦バーベキュー大会2005

9月10日に浜松自立支援センター関係者の交流、親睦を目的にバーベキュー大会が開催されました。天候にも恵まれ(まだかなり暑かったですが・・・)自立支援センターの会員、ぴあねっと浜松利用者やそのご家族・ご友人、ぴあねっと浜松スタッフ、ボランティアで参加してくれた皆さん、総勢70名以上の参加があり、大変賑やかな大会となりました。

準備段階からお手伝いいただいた、静岡大学ボランティアサークル「ami」の皆さんやボランティア団体「バルーン」の皆さんの活躍もあり、大会はスムーズに進行出来ました。



すいか割り

参加者の自己紹介やスイカ割りも盛り上がり、最後は「バルーン」の名倉さんのハーモニカ演奏による「明日があるさ」をみんなで合唱し大盛況のうちに大会を終える事が出来ました。



参加者の感想

「満腹バーベキュー」 細田めぐみ

晴天の中、行われたバーベキュー大会。ぴあねっと利用者、職員、ヘルパー、日頃なかなか会うことの出来ない人達との親睦の時間。誰の顔を見ても笑顔が見られ楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

そして私は、バーベキューで食べたお肉以上に皆さんからパワーをもらい、お腹もいっぱい、心もいっぱい、「満腹」になりました。

ごちそうさまでした

中学生体験

水島秀俊

平成17年10月18日と19日の2日間、天竜中学の生徒が、ぴあねっと浜松のほうに福祉教育に来られました。私は19日のほう（中学1年生・男子3名と女子2名）を担当しました。

最初、自己紹介と私の生活の様子のスライドを見せた後、外でバンザイ号の説明と実技を、Sさんに熱心に説明して頂きました。生徒のほうも興味深く聴いていたようです。実技のほうは手順どおり進まず、苦労している場面も。

その後、ヤサカの敷地内で手動と電動の車椅子の説明と練習を行った後、街中のほうに出かけました。道路がカマボコ状になっていて車椅子は真っ直ぐに漕ぎにくいこと。側溝の網にキャスターが、はまってしまうこと。横断歩道と道路との段差や歩道と車道の段差。草の生えた道や砂利道等々。車椅子で街中を走行すると、いたる所にバリアーが存在することを実感してくれた様子。

ただ、終盤になって慣れてくると、ふざけあたりして側溝に車椅子が落ちこちそうになる場面も特に男子（足が利くから、飛び降りたり足で止めたり等で危険を回避できたけど、足の



利かない障害者だったら大怪我だよ。ここらへんは、まだ遊び感覚というか、短時間の体験だけだからという考えが抜けきれないんだよね。

実際、障害者の身になってみないと、こういうことは親身になって実感できないのは、仕方ないことなのかな。

お昼の時間には、お互いに向かい合って食事を食べさせる食事介助の体験をしてもらいました。男子と女子とで組んでと提案したら両者から大反対。多感な中学生にと

っては、異性に食べさせてあげるなんて、恥ずかしくて照れて、やってられないってことね。同性同士でも、ぎこちなく体験していた様子。何を、どれだけ口に入れて食べさせてもらうかの指示の出し方やタイミングの出し方の難しさが十分、分かった様子。

将来、大好きな彼氏や彼女に食べさせてあげる予行練習になった(?)かも。短時間であったけども、福祉に興味を持って、ぴあねっとに来てくれた生徒だから、将来、思いやりを持った優しい、そして人の痛みが分かる大人になってくれたら良いな。

日常生活研修“実技 講演”について

塩原 啓

いつも講義をしている時は、すごく緊張する。家で暮らしている時と講義をしている時の気持ちは一緒だ。

事務所で言う時は、100%手落ちのないようにしたいのだが、やはり一人の人間なのでドジもあります！

日常研修を終えた後、いつもここはこうすればよかったなど、反省することばかりです。

いつになったら100%の講義が出来るかなー！

『編集日記』

編集長I) 原稿がなかなか集まらなかったし、パソコンのデータが壊れて悲惨だった。

T) そうですねえ。結構大変でしたねえ。前回から時間かかってしまったので、もっと短い期間でやらんといかんすね。

M) なにか見えない大きな力がはたらいている気がしますねー。

介助スタッフ募集!!

ぴあねっと浜松では、身体・知的障害者の方達の在宅生活の支援をしています。
障害者の自立に興味があって、熱意とやる気のある方を大募集しています。

時給：1000円以上(ヘルパー2級以上は1200円以上 H18 4月1日現在)

資格：ヘルパー各級、看護師、介護福祉士、ガイドヘルパー

無資格者は応相談(資格取得制度有)

勤務内容：身体介護・家事援助・移動介護

勤務地：浜松市・磐田市他勤務時間：24時間

詳細は下記まで連絡を

担当 笠原

お知らせ

ピープルファースト集会

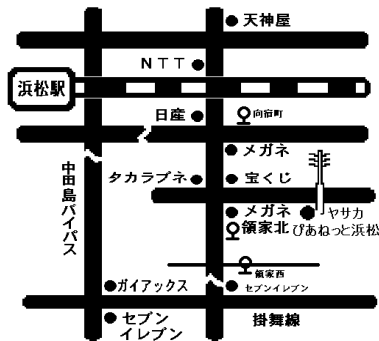
日時 5・6月開催予定

静岡ピープルの方々に来ていただき、

「ピープルファーストについて」の懇談会を

開催します。

浜松自立支援センター MAP



交通手段: バス

浜松駅バスターミナル

6番のりば 北寺島・大塚 【向宿町】下車

7番のりば 遠州浜 【領家西】下車

「浜松自立支援センター」

〒430-0852 浜松市領家1丁目7番30号「ヤサカ」内

電話：050-3422-4704

FAX：053-467-0444

e-mail：cil@peerhama.com

URL：<http://cil.peerhama.com/index.htm>